

第39回（令和5年度）
石川町少年の主張大会
—今、私たちが伝えたいこと！—
作品集



主催 石川町青少年健全育成推進協議会

後援 福島民報社/福島民友新聞社/町民ニュース社/夕刊いしかわ新聞社

《 第 3 9 回石川町少年の主張大会作品 もくじ 》

・『 あいさつの習慣 』						
石川小学校	6年	みもり 三森	ゆうき 悠生		1
・『 不登校について 』						
石川小学校	6年	すずき 鈴木	あんな 杏奈		3
・『 「SDGs」を全て達成するために 』						
石川小学校	6年	さんぺい 三瓶	あいか 愛加		5
・『 地震から命を守るために 』						
野木沢小学校	6年	さとう 佐藤	まな 愛菜		7
・『 過ごしやすい未来につなげるため 』						
石川中学校	3年	こまつ 小松	かれん 果恋		9
・『 もったいないをなくす 』						
石川中学校	3年	すずき 鈴木	かれん 華恋		11
・『 戦争について 』						
石川義塾中学校	2年	てらしま 寺嶋	ゆいと 唯人		13
・『 未来へと続く日本語 』						
学校法人石川高等学校	2年	くさの 草野	りょうか 涼夏		15
・『 私の十七年間～夢を叶えるには 』						
福島県立石川高等学校	3年	おの 小野	ろくた 禄太		17

《少年の主張大会の趣旨》

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次世代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることが大切です。

少年の主張大会は、青少年にとってこれらの契機となることを期待するとともに、青少年の健全育成に対する町民の理解と関心を深めることを目的として実施しました。

《講 評》 石川町社会教育指導員 野崎 昭二

『あいさつの習慣』

石川小学校 6年 ^{みもり}三森 ^{ゆうき}悠生

ぼくは、大きな声であいさつをすることが苦手です。四月から最高学年になり、学校の先生からは、「相手に聞こえるように、大きな声であいさつをしましょう。」と、毎日のように言われます。しかし、ぼくにとっては「大きな声で」がなかなか難しいことなのです。

ぼくは、低学年のころから人と話すのが苦手で、あいさつをしようと思っても、緊張してなかなかあいさつの言葉が出てきませんでした。母は、あいさつをしないぼくをずいぶん心配したそうです。そこで、母が思いついたのは、ぼくに回らん板を回す仕事をさせることでした。回らん板を回す仕事が、あいさつの練習になると考えたのです。ぼくが回らん板を届ける相手は、祖母と畑に行ったときによく顔を合わせるとご夫婦です。回らん板を回す仕事を始めたばかりのころは、「なんて話せばいいのかな。」「人と話すのはやっぱり苦手だな。」「緊張するな。」と、心配な気持ちでいっぱいでした。でも、やってみると意外に簡単でした。慣れてくると、緊張することもなくなってきました。今でも、それはぼくの仕事です。もう五年も続けてやっています。そして、この仕事のおかげで、ぼくはいつでも、だれにでも、自分からあいさつをすることができるようになりました。今でも人と話すのは苦手ですが、その夫婦の方とは、会話を交わすこともできるくらい親しくなりました。

あいさつを何回も繰り返していれば、習慣になります。そして、誰にでも自然とあいさつをすることができるようになります。さらに、人とのコミュニケーションの力も身につきます。ぼくの苦手な「大きな声であいさつすること」も、毎日続けていけばきっと自然とできるようになると思います。

ぼくの今のあいさつの目標は、先生方はもちろん、下級生に対しても、大きな声で元気にあいさつをすることです。朝、学校の前でぼくたちの登校を見守ってくださっ

ている校長先生や用務員の瀬谷さんに、今よりも大きな声であいさつをしたいと思います。また、最高学年になった四月から、六年生みんなで行っている朝のクリーン活動の時も、掃除をしながら、登校してきた下級生たちや先生方にあいさつをしたいと思います。教室では、先生よりも先に元気にあいさつをしたいと思います。

石川小学校のみんながあいさつの習慣を身に付け、明るいあいさつが飛び交う学校になったらいいな、と思っています。そのために六年生のぼくが、進んで大きな声であいさつをしていきます。

(講評)

悠生君は、苦手だった「大きな声であいさつすること」が、お母さんのアイデアで、回らん板を回す役割をきっかけに克服できたようですね。

大きな声であいさつをすることは、とても勇気が必要です。でも、大きな声であいさつをすることで、気分がとても良くなります。

発表の中でも、「石川小のみんなが元気にあいさつすることで、明るいあいさつが飛び交う学校になったらいいな」と考えてくれたので、ぜひ、頑張って取り組んでください。

『不登校について』

石川小学校 6年 ^{すずき}鈴木 ^{あんな}杏奈

わたしの姉は不登校でした。今も、朝起きることが出来ず、毎日ちこくして登校しています。学校に行かなかったときは大変でした。お母さんが、いやがる姉をむりやり学校に連れて行こうとしたり、マンガやスマホを取り上げたりしているときもありました。そうすると、姉はおこってお母さんとけんかになります。結局取り上げたものは返して、学校も休みます。その姉を見て、お母さんは、悩んでしまいます。

子どもが学校に行かないと親は心配すると思います。でも、学校に行かないことは、悪いことではありません。その子の自由です。社会科の授業でも、親や大人は子どもに教育を受けさせる義務がありますが、子どもには、教育を受ける権利があつて、無理して学校に通わなくてもいいと、習いました。それに、学校に通っていても、心配になる原因は無くなりません。勉強のことや友達関係で、いつも心配することがあると思います。学校に通うことがあたりまえと思っている人は、多いと思います。でも、コロナが流行して、休校や行動制限などの経験を通して、あたりまえのことがあたりまえじゃなかったことにわたしは、気が付きました。

なぜわたしは、学校に通っているのでしょうか。今までは、なんとなく学校に通っていた気がします。でも、身近な人の不登校を見て、ちゃんと考えてみると、わたしにとって学校は、一番教育を受けやすい場所だと分かりました。勉強はあまり好きでは無いけれど、知らなかったことを知ることで、世界が広がる気がします。家の中に閉じこもっては出来ない経験です。それに、いろいろな経験をして、自分の好きなことや苦手なことを知ることも出来ます。自分のことを知ることで、自分がやりたいことを見つけていけるとと思います。

また、友達に会えることも、私が学校に通う理由の一つです。一緒に遊んだり、悩んだりして、いろいろなことを学んでいます。だからわたしは、毎日学校に通って

ます。

不登校の子には、学校に通えない理由があると思います。はっきりした理由があったり、なんとなくやる気が起きなかったりと、様々です。でもそれは、なまけていたり、さぼっていたりしているのではないと思います。大人でも、仕事が合わなくて、休んだり、転職したりすることがあります。それと同じように、子どもにも、自分にとって安心できる居場所を見つけていければいいと思います。

無理やりいやな場所に連れて行って、喜ぶ人はいません。子どもももちろん笑わないと思うし、親も、子どもの笑顔をうばいたいと思っていないはずです。みんなが学校に通っているから通わせるではなく、その子にとって成長できる居場所を見つけて、みんなが笑顔で過ごせるようになればいいと思います。学校に通うことについて、子どもの思いを大切に居場所作りをしていければ、姉は前より笑っていけると思います。

(講評)

杏奈さんは、お姉さんの不登校から考えた貴重な意見を発表してくれました。お姉さんが不登校になったことで、お母さんはとても心配されたことと思います。杏奈さんが発表されたように、不登校になっている人は、なまけていたり、さぼっていたりしているのではないと思います。しかし、大人は不登校になると、「どうして学校に行かないの・・・」とその子どもを追いつめてしまうことがあります。お姉さんが、笑顔で行ける「自分にとって安心できる居場所」をお母さんと一緒になって、見つけてあげてください。

『「SDGs」を全て達成するために』

石川小学校 6年 ^{さんべい}三瓶 ^{あいか}愛加

みなさんは、日常生活の中で、SDGsを意識していますか。私は、SDGsについてがんばっていることが、三つあります。

一つ目は、マイバッグやマイボトルを持ち歩くことです。これは、SDGsの「14番 海の豊かさを守ろう」と「12番 つくる責任、つかう責任」につながります。マイボトルを持つと、廃棄物の発生防止、削減、再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減することができます。また、マイバッグを持つことで、プラスチックごみを削減することができます。これにより、環境にやさしくすることができます。そのため、常にマイバッグとマイボトルを持ち歩くくせをつけて、がんばっています。

二つ目は、紙の削減です。これも、SDGsの「12番 つくる責任、つかう責任」につながります。私は、何かを書くとき、コピー用紙などの裏紙を積極的に利用しています。紙を生産するには、その原料となる森林を伐採しなければならないので、紙の使用を減らせば、森林の伐採量がおさえられ、地球上のきちょうな資源が守られます。そう考えて、私は、何かを書くときは、コピー用紙などの裏紙を使うように心がけています。

三つめは、節電です。これは、SDGsの「7番 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」へとつながります。夜は、家族が一か所に集まって、電気をあまり使わないようにしています。節電に取り組むことで、電力を生み出すときに発生する二酸化炭素の排出量を減らすことができます。二酸化炭素が増えると、地球の平均気温が上昇するなど、私たちの暮らしに直結する問題も生じています。だからこそ、節電に取り組むことは、とても大切なことです。

次に私は、これから目を向けてがんばっていきたいSDGsが一つだけあります。それは、SDGsの「12番 つくる責任、つかう責任」のポイ捨てをしないという

取り組みです。歩いて登下校するときに、ペットボトルなどのごみがたくさん捨てられているのを見ます。私はそのたび、町がよごれていることを感じ、悲しい気持ちになります。ですから、町をきれいにするためにごみ拾いをがんばってやりたいです。そして、地球にやさしい環境を目指していきたいと思います。

このように、私はSDGsの取り組みをがんばっています。まだ、三つのことだけ、自分にできる取り組みを続けていきたいです。また、SDGsで気になったところに目を向けて、自分にできることを見つけ、2030年までに17の目標を全て達成したいと思います。

(講評)

愛加さんは、学校の授業でSDGsについて、勉強されたのですね。

SDGsでは、地球温暖化による気候変動や地球環境を守り、限られた資源を大切に使うことなどを目的に世界全体で取り組みがされています。

愛加さんは、地球にやさしい環境を守るため、マイバックやマイボトルを持つこと、紙の再利用、節電など、日常生活で自分にできる取り組みを分かりやすく発表してくれました。

SDGsの取り組みは、一人ひとりの取り組みが大切です。これからもできることを増やして、家庭や学校で取り組んでください。

『地震から命を守るために』

野木沢小学校 6年 佐藤 愛菜

「地震です。」今、この瞬間地震が起きてしまったら、みなさんはどうしますか。もし、その場所が、海の近くだったら、どうですか。

私は、東日本大震災が発生した年の七月に生まれました。ですから大震災のことは、学校で学んだことしか知りませんでした。先生がお話をしてくださっても、資料を見せてくださっても、テレビなどを見ているような感覚で、自分には関係のないことのように感じていたような気がします。

しかし、今年のゴールデンウィークに岩手県釜石市にキャンプに行ったことで、私の考えは大きく変わりました。私が行ったキャンプ場は海沿いであって、少し歩けばすぐに海を見ることができました。他のキャンプ場にも行ったことがありますが、津波に関する警報などが出たときの避難方法を説明されたことは初めてでした。白と赤の市松模様の旗が避難のサインで、キャンプ場から高台に向かう階段がありました。母と一緒に登りましたが、途中で息切れしてしまうほど段数がありました。でも、高台から見えたキャンプ場と海がとてもきれいで、「いつまでもこの景色が残るといいね。」と母と話をしました。

キャンプの二日目に陸前高田市にある「東日本大震災津波伝承館」に行きました。私はそこで「津波てんでんこ」という言葉を知りました。これは、岩手県の海に近いところに住む人達の間で伝えられてきた言葉で、「津波が来たら何をしてもてんでんばらばらに、自分の命を守るために行動しなさい」という意味だそうです。もし、私が一人で海の近くにいるときに地震がきたら、どうしようと困ってしまって、近くの大人を探したり、母に電話をかけて相談したりしていたと思います。でも、そんなことをしていたら、命を守ることができなくなるだと分かりました。

伝承館の近くには、震災遺構である、「旧道の駅松原」の建物が残されていて、14.

5メートルの高さまで津波がきたと表示されていました。実際に見たその高さは、学校もすっぽり入ってしまうほど高く、本当に驚きました。

私の父や母は、大震災の時大きな被害は受けなかったものの、お店に物が届かずに買い物をすることが大変だったことや、電気が使えなかったことなどを時々話してくれます。

このように、経験したことを伝えていくことが、一人でも多くの人の命を守ることにつながるのだと、私は改めて実感することができました。そして、毎日当たり前のように生活できることに感謝しなければならないなとも思いました。

もし、今大きな地震が来たら。避難場所はどこなのか。今いる場所は、安全なのか。防災バックはあるか。みなさんが自分や家族の命を守るために、考えるきっかけになったらうれしいです。

(講評)

東日本大震災が発生して12年が経過しましたが、小学生の皆さんは、その時はまだ、生まれていなかったのですね。

愛菜さんは、震災で大きな被害を受けた釜石市と陸前高田市の「津波伝承館」に行ったことで、地震と津波の恐ろしさを実際に見ることができたのですね。

日本は、いたるところで地震が発生しています。5月にも石川県で大きな地震が発生し、家が壊れたり、水道が出なくなったりして困っている様子が放送されました。また、南海トラフ地震が発生すると関東地方から九州地方にかけて、大津波の襲来が想定されています。

愛菜さんは、地震や津波から大切な命を守るため、これからも家庭や学校で地震が起きたらどうしたらよいか、みんなに呼びかけてください。

『 過ごしやすい未来につなげるため 』

石川中学校 3年 小松^{こまつ}果恋^{かれん}

私は先日、兄の引っ越しのために、京都に行きました。五日間ほど京都に滞在しましたが、驚いたのは外国人の多さです。買い物先、観光先、どこを歩いても、行く先々に外国人がいました。アメリカやヨーロッパの方、中国などのアジア圏の方。それは、肌の色や髪色、その人達が話している言語から想像できました。こんなにたくさんの海外の人を見るのは初めての体験でした。

私は石川町に住んでいます。人生で関わったことがある外国人は、小・中学校で英語を教えてくれたALTの先生くらいです。私生活で関わったことはありません。しかし、京都では当たり前のように外国人と接する機会がありました。ホテルのスタッフ、宿泊客、観光客、どこを見ても外国人ばかりでした。自分が海外に来たのかと勘違いしそうになり、海外をとて近く感じました。京都と石川町の差は何なのでしょう。それは、国際対応なのではないでしょうか。

京都はもともと歴史的な観点から観光地として人気が高いです。それに伴い、外国人への対応も進んでいます。ホテルや飲食店のスタッフが英語を話せるだけでなく、標識やエレベーター、観光名所の説明も英語で書かれたものを多く見かけます。また、海外の人に向けたツアーを受け入れています。京都は観光資源を最大限にアピールしており、海外の人の呼び込みができています。

それに対して、地方はどうでしょうか。標識や案内にローマ字表記が書かれているものはあるかも知れません。しかし、これが呼び込みにつながっているのでしょうか。私は、地方の活性化の一つとして、観光客の集客が重要だと考えています。そのためには、少ないながらもある観光資源をどう活用するのかを一番に考えなければならないと思います。

石川町の観光資源と言えば、まず桜でしょう。町のいたる所に咲いている桜は、一本一本が美しく、見応えがあるものです。そして川沿いのたくさんの桜は壮観です。既に、石川町のホームページには、桜の名所を探せるマップが掲載されています。ここに国際対応を組み込んでいくのはどうでしょうか。観光に関するページでは、外国語での情報が載っていると、利用者も助かると思います。

ここで気になるのは、外国人のマナーです。例えば、ニュースで知ったのですが、桜の写真を撮るために、枝を折ってしまう人がいるそうです。これを防ぐためには、桜の近くに、英語やそれ以外の言葉で書かれた、注意を促す看板の設置が必要だと思います。

次に、石川町が誇るのは、歴史がある素晴らしい温泉です。質が良く、国内の人気は高いものがあります。そこで、是非、海外の人にも利用してもらいたいと思います。そのためには、スタッフの多国籍化、言語力が必要になってくるのではないのでしょうか。それに加え、町外の人に向けたイベントの開催はどうでしょうか。町全体を使ったスタンプラリー、映える写真スポットの紹介など、SNSに投稿したくなるスポットがあると、若い人の関心を集められると思います。町全体の知名度ではなくても、一カ所の知名度が上がれば、町、そして他の店の知名度も上がり、結果として、石川町の活性化につながるのではないのでしょうか。

海外の人を受け入れるためには、さまざまな対応が必要で、とても労力がかかるかも知れません。しかし、これからの石川町、そして、社会全体につなげるために重要なことだと思います。

私はこの先、海外の人と関わることを考え、英語の学習に力を入れて取り組んでいきたいと思います。海外の人と積極的に関わることで、気付かなかった偏見や差別がなくなり、過ごしやすい世界に変わるように行動していきたいと思います。

(講評)

果恋さんは、京都に行って外国人の多さに、驚かされたのですね。石川町で生活をしていると外国の人と話しをする機会は、少ないと思います。

今回の発表では、石川町の誇れる桜や温泉、イベントの開催などを町外や海外の人が来るように情報を発信することで、石川町の活性化につながることを考えて、貴重な意見を発表していただきました。

これからは、仕事や観光などで多くの外国人が、福島県や石川町にも来るかもしれません。大人の人では気付かないこともあります。果恋さんが考えたことをこれからも発信して、過ごしやすい未来、住みたくなる石川町をつくりましょう。

『 もったいないをなくす 』

石川中学校 3年 ^{すずき}鈴木 ^{かれん}華恋

みなさんは、「もったいない」という言葉を耳にしたとき、どのようなことを考えますか。私はこの世界に「もったいない」がたくさん存在すると考えます。そこで、私が思う四つの「もったいない」を紹介します。

まず、食料の「もったいない」です。毎日ご飯を一粒も残さずに食べているでしょうか。食べ残しはよくありません。与えられた量は、できるだけ残さないことが大切です。世界には、食事を摂ることができない人がいます。調べたところ、世界の飢餓人口は8億人以上もいるのです。特に、南アジアとサハラ以南のアフリカ地域に集中しています。飢餓の原因は、災害・貧困・紛争などが理由です。日本人の私たちは、不自由なく食事ができています。そのことに感謝しつつ、食料の「もったいない」を減らしていきたいと思います。

二つ目は、電気についてです。私は、電気に関して気をつけていることがあります。例えば、晴れている日はなるべく電気をつけない、就寝中は電気を常夜灯にしないで完全に消して寝る、などを意識してやっています。私は学校で、次のような場面を何度も見かけたことがあります。それは、トイレと教室の電気をつけっぱなしにしていることです。自分が気付いたときは消すようにしています。そのほかにも、家では、携帯電話の充電器はずっと差したままにせず抜いています。また、使っていない場所の電気を消しています。最近の電気料金の値上がりも気になりますので、こまめにスイッチを消しています。

三つ目は、水の「もったいない」です。水は生活の中でたくさん使われています。洗濯、食器洗い、シャワーなど、日常生活に欠かせません。私たちは、水がないと生活が成り立ちません。みなさんは、節水を心がけていますか。私は、シャワーを出しっぱなしにしないようにしています。使わないときは一度止め、使うときに出すようにしています。そうすることで、少しでも節水ができると思います。ユニセフによると、世界では二十億人以上が安全に管理された飲み水を使用できず、一億人以上が、湖や河川、用水路などの未処理の水を使用しているそうです。最初に述べた食料と同様に、日本は本当に水資源にも恵まれた国なのです。

最後は、紙の「もったいない」についてです。最近はCO2削減のため、あまり紙を使わなくなっています。みなさんは、一年間にどれくらいの紙を消費していると思いますか。正解は、約二百キログラム。日本は世界で第六位の消費国となっています。私は、コピーした紙の裏面を使うようにしています。裏面は白紙で、書き込むことができる場合が多いです。このような工夫で、一枚の紙を再利用できます。私は、この工夫は環境にも良いと考えます。課題となっているCO2削減にもつながると思います。

私は、これらの四つのこと以外にも、「もったいない」は存在すると思います。例えば、お金の使い方です。物の買い過ぎにも「もったいない」が存在します。ですが、一つ一つのことには少しずつでも対策に取り組めば、「もったいない」をなくすことができるのではないのでしょうか。

また、このような対策は、SDGsに関わってくると考えます。残食をゼロにすることはもちろん、節電、節水、再利用することは、環境にも社会にも良いことだと思います。全てを完璧にすることは難しいかもしれませんが、する・しないは個人が決めることかも知れません。しかし、自分ができそうだったことは、実行してみてもどうでしょうか。小さな一つの積み重ねをすることで、いつか世の中の「もったいない」がなくなることを願います。

(講評)

華恋さんは、「もったいない」と小さなことの積み重ねをすることで、地球環境を守ることの大切さを発表してくれました。

世界の飢餓人口が8億人、安全な飲み水を使用できない人が20億人、1年間に消費される紙の量は200Kgなど、大変よく調べていただき驚きました。

華恋さんは、日常生活で食べるものがなく、水や電気が使えないとしたら、どうしますか……。生きていくことも大変で、想像もつかないですね。

しかし、世界中には、飢えや貧困で苦しんでいる子ども達がたくさんいます。

これからも「もったいない」をなくす取り組みを続けてください。

『 戦争について 』

石川義塾中学校 2年 てらしま ゆいと 寺嶋 唯人

私は今回、世界の戦争・紛争についてお話ししたいと思います。このテーマを設定した理由は、もう始まって一年になるロシアのウクライナ侵攻や、G7サミットが広島で行われたというニュースがあったからです。

最近、ニュースで「世界情勢が不安定になっている」といったことを耳にする日が増えたと感じています。ウクライナ侵攻が始まったときには、「ロシア・ウクライナ間には戦争が始まる前から問題があった」という特集番組が盛んに放送され、表向きになっていないだけで昔からずっと続いている戦争・紛争があると知りました。2023年6月現在、ウクライナ侵攻が始まってから1年と4ヶ月が経過しました。私たちが知り得ないところで、祖国のため、家族のために戦っていき、毎日誰かが亡くなっているという現実を目の当たりにし、とても悲しい気持ちになりました。ただ、同時に、いずれはこの戦争も終わるはずであり、別のところで続いている戦いも全部なくなってくれと信じています。そう信じる理由を、以下に挙げていきます。

まず一つ目は、とても意義のあるG7サミットが開催されたことです。G7サミットは、先月5月19日に、日本の広島で開催されました。私はこのニュースを見た時、世界唯一の被爆国である日本での開催で、しかも場所が原子爆弾の落とされた地である広島だというのは、大変なチャンスだと思いました。広島には原爆ドームがあり、世界で唯一、原爆の酷さ・恐ろしさを直接見る事ができる土地だと思います。また、そこから戦争の悲惨さや、戦争では失うものがあっても何も生まないことが分かるはずです。

サミットでは、多くの国が核軍縮に前向きな意見を表明し、核兵器を使用しない・させないというメッセージを発表しました。これは、ウクライナに侵攻しているロシアが発した、「ウクライナが抵抗を続けるなら核兵器を使うことも辞さない」という脅迫への、世界の返答であると考えます。このメッセージは、戦争終結への大きな一歩だと感じました。また、当日のニュースで、ウクライナの大統領のゼレンスキー大統領も出席していると知ってびっくりしました。ゼレンスキー大統領も来日できるくらいに、現地の状況が安定しつつあると思うと嬉しく感じました。「ウクライナはいつ頃に大攻勢をかける」「ロシアが核兵器による脅しを行っている」などといった声がまだ各所で聞かれ、戦争は続いていることも確かですが、サミットを契機として、戦争終

結が早まったと感じます。

二つ目は、世界の戦争について調べていくうちに、それらが解決可能であると考えたからです。この話題について考えていくうちに、戦争や紛争などに興味や関心が湧いてきて、ネットなどで調べてみました。現在も起こっている戦争・紛争は、アフガニスタン紛争・シリア内戦・イラク内戦といった有名なものから、クルド対トルコ紛争・リビア内戦・イエメン内戦など初めて聞いたものもありました。特に驚いたのが、アフガニスタン戦争が二十年近く続いていることで、第二次世界大戦で日本が戦った期間である四年間と比べるとあまりに長く、とても信じ難かったです。気づいたことは、国同士による戦争よりも、テロ組織やデモの過激化などの方が多かったことです。これらの紛争の原因の多くは、宗教や人種・文化の違いなどから地域社会内での対立が深まったことです。このことについて、現在世界で広がっているSDGsの考え方や、多様性を認める意識が広がっていくことが、相互理解・紛争の解決につながると思います。紛争地域の人々の憎悪を取り去ることは難しいと思いますが、先ほど挙げたサミットなどの活動を通して、理解を広げられると考えます。

最後に、これらの問題に対して、自分でもできることがあるのか調べてみました。その結果、募金やボランティアなどの人道支援が盛んに行われていると知りました。他にも様々な、人の命を助ける活動が行われていると思います。私は今後、こういった活動に積極的に参加したいと思います。また、周囲の友人にも声をかけ、学校単位で参加できるようにしていきたいです。

戦争は、自分たちに関係ないことではありません。身近に起きていることと考え、理解を深めていく必要があると思いました。

(講評)

唯人さんは、ロシアのウクライナ侵攻から世界の戦争・紛争について、いろいろと調べて、自分の考えを発表してくれました。

戦争はなぜ起こるのでしょうか。戦争では、何も悪いことをしていない一般の人々が、ミサイルや砲弾により尊い命が犠牲になっています。

唯人さんは、広島原爆ドームや原爆資料館を見たことはありますか。

核爆弾が投下され、一瞬にして多くの市民が犠牲になりました。その悲惨さは目を覆いたくなるくらいひどいものです。機会があったらぜひ見学してください。

世界中の核兵器の数は約1万3000発とも言われています。戦争では、悲惨さや失うものがあっても得るものはありませんね。一刻も早く戦争が終息して、安心して生活ができるといいですね。

『未来へと続く日本語』

学校法人石川高等学校 2年 草野^{くさの}涼夏^{りょうか}

「ヤバイ」

皆さんはこの言葉を口にしたことがありますか？ 自分ではなくても、周りの人や映像の中の人物も含めれば、耳にしたことがある人は多いのではないのでしょうか。私は自分でも口にしながら、いつも心の中で思っていました。「何がどう『ヤバイ』の？」
「すぐにはっきりと答えられる人は果たしてどれだけいるのだろう」と。私は、物事の状態や人の感情を豊かに表現できるのが日本語の魅力だと思っています。

日本語という言葉に魅力を感じ、興味を持ち始めたのは今年の六月、ちょうど今頃のことでした。学校の図書室でたくさんの本に囲まれながらさまざまな小説を読みふけり、本の世界に引き込まれた私は、「自分も小説を書いてみたい」という思いを抱いたのです。さっそく原稿用紙五枚程度のすぐに読める短編小説を書いてみました。ところが、完成した作品は、お世辞にもよい出来とは言えないものでした。小説家ではないのだからと言ってしまえば確かにそうなのですが、これまでに私が読んだ小説とは明らかに違っていることに落胆したのを覚えています。

いったい何が違うのか。それは言葉の使い方でした。一つのことを表現するのに、日本語にはたくさんの言葉が存在します。そのため、どんな言葉を選択するかで、物語の場面や登場人物の心情の伝わり方も変わってしまうのです。これは小説家という特別な才能を持つ人たちだけの問題ではありません。私たちの日常においても、同じことが言えると思います。それから私は、日本語の美しさや素晴らしさを意識するようになり、調べたり学んだりする機会が増えていきました。

例えば、私の好きな「桜」を表す「夢見草」という言葉。夢のように美しく咲き誇る花。しかし、無情にも儂く散ってしまう桜のことを、昔の人は「夢見草」と呼んだそうです。その言葉を知った時、私は「なんて素敵な言葉だろう」と感激しました。桜の美しさ、儂さを「夢見草」という言葉に込めて愛でていたのかと思うと、少し不思議な気持ちになります。どんなに時が経ったとしても、桜の儂さそして美しさを見出す日本人の感性は存在し続けているのだと。

また、「絶体絶命」という言葉。「絶」という文字を偏とつくり分解すると、「糸色

体（愛しき体）、」「糸色命（愛しき命）」と読むことができると知り、日本語の奥深さを感じました。知らなかった言葉を知る、それだけでも心が豊かになるような気がします。

日本語には独特な表現があり、まだまだ知らない多くの言葉が存在すると思います。長い時を経て、新しい言葉や略語も生まれ、誤用とされてきた使い方の扱いも変わってきているようです。表現の幅が広がったり、日常のコミュニケーションを円滑にしたりする利点がありますが、語彙力や国語力の低下に繋がる可能性は無視できません。私たちの世代こそ日本語を正しく学び、伝えていかなければならないと強く感じます。

諸説ありますが、「地球の海の95%は解明されていない」と言われています。これは日本語にもあてはまる言葉だと私は思います。毎日何気なく話す言葉の他にも、日本語には、私たちが知らないだけでたくさんの豊かな表現があるのです。私たちは、日本という国に生まれ、日本語を第一言語として生きています。非常に奥深い日本語という言語を深く学び、理解し、大切にしていきたいと改めて思うし、皆さんにもそう思ってほしいです。その姿勢があってはじめて、他の言語の素晴らしさも知ることができるのではないのでしょうか。

私たち若い世代が率先して学び、日本語の美しさや素晴らしさを伝えていきましょう。一人ひとりの力は小さくても、日本語の魅力をさまざまな形で発信していくことから始めてみませんか。私は、日本語の「海」に溺れるのではなく、広く、深く、美しい日本語を学び、愛していきたいのです。

（講評）

涼夏さんは本が好きで、日本語の魅力や美しさ、豊かさを感じて日本語の大切さを発表してくれました。

新しい言葉が、時代と共に次々と生まれてきます。「ヤバい」という言葉もよく耳にしますが、本来の意味は、「危ない・怖い」だと思います。しかし、「驚き・素晴らしい」などとして使われていることもあり、伝わりにくいことがあります。若い人たちが使っている新しい略語も、たくさんあるように思います。

世界中には、それぞれの国の言語があり、その一つの日本語をより大切に使うといいと思います。これからも日本語を正しく学び、その素晴らしさ、魅力を探求してください。

『私の十七年間～夢を叶えるには』

福島県立石川高等学校 3年 小野 禄太^{おの ろくた}

人はみな 夢、理想を持っています。しかし、多くの人は、その「夢」を叶えられずに人生を終えてしまう。なぜなのか？途中で諦めてしまうから？運が悪かったから？確かにそういった原因もあると思います。しかし、本当に、夢が叶わなかった全ての人が、これらが原因で夢が叶えられなかったのでしょうか。私は、大きな原因の一つとして、Action、つまり行動に移したかどうかが挙げられると思っています。挑戦と言ってもいいでしょう。「ああなりたいなあ。」とか「こうなりたいなあ。」と楽しそうに夢を語っているだけでは、夢は叶わないということです。

私はこれまで生きてきた十七年間で、たくさんの挑戦をしてきました。地域のスポーツクラブではソフトボールチームのキャプテン、中学校では卓球部の部長を務め、最後までチームを引っぱりました。また、趣味のマジックでは、多くの大技を披露して見る人を喜ばせました。学校祭の意見文発表では、生きることの意味や人生に対する自分の考えをスピーチして優勝したこともあります。その他にも、ここでは語りきれないほど挑戦をしてきました。

その中でも、特に自分が大きく成長したことは、趣味の「マジック」です。マジックを始めたのは小学三年生の時でした。きっかけは、祖母が百元ショップのマジックグッズで、十円玉がコップの底をすり抜けるという魔法を僕に見せてくれたことでした。摩訶不思議な光景を初めて見て、僕は、「もっかいやって！」と心の底から喜んでいました。それからというもの、僕はトランプやコインなどの道具を親に買ってもらい、毎日毎日、独学でマジックの練習をしました。年月を重ね、最初は家族にだけ見せていましたが、学校や発表会などで披露したり、マジックの大会に出たりするくらいにまで上達しました。

しかし、挑戦にはリスクが伴います。ある日、大人数の前でマジックを披露している時のことでした。その日はあらかじめ三つのマジックを用意して何日も前から練習をしていました。当日、二つの演技が終わった時、見ている人達はすでに大喜びしてくれていました。拍手も起こっていました。私はそれを見て、（もうこれでいいかな。）と満足してしまいました。まだ三つ目の演技が残っているのに。私は非常に迷いまし

た。安全を選んでこれで演技を終えるのか、三つ目のマジックに挑戦するのか。それに、そのマジックは、三つの中で最も難しいものでした。もしかしたら失敗するかもしれません。一瞬迷った末、私はあえて挑戦しました。結果は、みごと成功でした。

人が大きく成長する時、それは自ら戦いに臨んだ時だと私は思っています。心地のよさからは、成長は生まれません。もし私がこのマジックで失敗していたとしても、私の成長は確定していました。なぜなら、私は「挑戦」したからです。挑戦こそが自分を強くし、成長させます。私が成長したのは、いつも困難に立ち向かった時、つまり、挑戦した時でした。

今、私には「世界を旅してたくさんの人と巡り合い、様々な体験をしたい」という夢があります。その道のりには、英語を学ぶこと、例えばアルバイトやボランティア活動などでコミュニケーション能力を身に付けること、人生のプランを立てること…私がこれからすべきことはたくさんあります。高校三年生の今、私は大学進学を目指しています。十七年間で最も大きな挑戦の時期です。言い訳はできない、やらなければならない状況に自分を追い込み、夢への第一歩とします。

私はこれから夢に向かって挑戦し続けます。そしてどんな夢も叶えて見せます。私の夢も皆さんの夢も挑戦することでできると信じています。そしていつか、夢を叶えたその先でお会いしましょう！

(講評)

人生を歩むうえで「夢・希望・目標」を持つことは、とても大切なことです。

禄太さんが発表されたように、まずは、挑戦（行動）することで、自分を強くすることができます。そして、失敗や成功することで貴重な経験や体験をすることができ、失敗のリスクは伴いますが、それが大きな自信へと繋がっていきます。

発表の中で「世界を旅してたくさんの人と巡り合い、様々な体験をしたい」との夢を持っておられます。ぜひ、その夢を叶えてください。

第39回（令和5年度）石川町少年の主張大会作品集

石川町青少年健全育成推進協議会

〒963-7852 石川町字関根 165 石川町教育委員会生涯学習課
電 話 0247-26-2566 F A X 0247-26-4992

